

高山の文化を高めた人々

51

一位一刀彫に生涯をささげた 永富 伸一

田中 彰

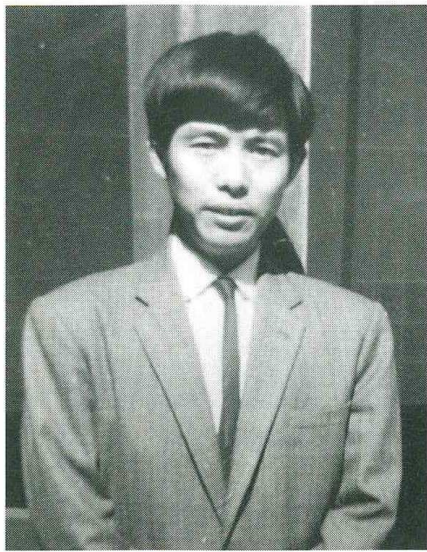
に話しています。

中学校卒業後、高山の鈴木彫刻に弟子入りし、そこで寝泊りをして技を磨きま

した。六、七年経ってから独立し、七日町に三十二歳まで居住、昭和三十七年には岐阜県美術展に入賞しています。昭和四十三年、上岡本町に新居を構え、昭和四十五年に結婚、三人の子どもを育てました。

永富は、昭和十二年、旧上宝村蔵柱の荒原集落に生まれました。先祖は平家にゆかりがあるとみえて、荒原の本家の墓地には「平清盛三男魂」と刻まれた墓碑があるとい

ます。蔵柱の小学校に在学中、修学旅行で高山に来て、一刀彫との運命的な出会いがありました。その時、高山の一刀彫に魅せられ、自分の進む方向を密かに決めたのだと、後



息子が撮影した永富氏（昭和55年頃）

のでは、彫る気分になるまでの時間が必要であったとい



「河童」

ともう完成しているように見えても、本人はまだまだ完成はしていないと納品はしませんでした。

そうして作られた作品の一つである「河童」を見ると、今にも動き出しそうなリアルな体躯をして、鑑賞する人を驚かせます。顔の表情がまた良い。目線は遙か彼方を見て、しっかりとした永富の志を表わしているようです。

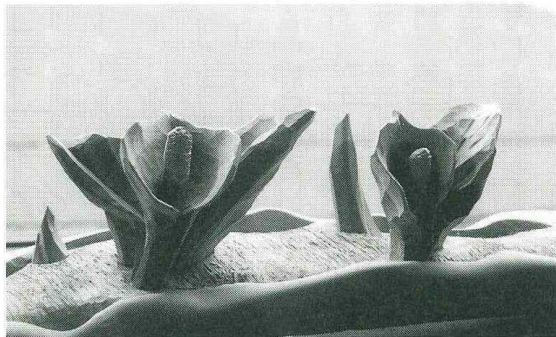
永富には意外な趣味がありました。それはギターで、一時期、高山古典ギター研究会に属し、活動していました。

平成四年、永富は高山市の「祭屋台修理技術者」に認定され、高山・祭屋台保存技術協同組合に加入、屋台の彫刻修理を担うことになりました。高山祭石橋台、日枝神楽台、犬山の浦島台、遊漁神車、小牧の西王母車などの彫刻を修理しています。私はそのころ市職員として屋台修理の担当をしていたので、修理状況の検査のために訪問し、「納期をよろしく」と何回も頼んだ

ものです。しかし、いつも屋台彫刻の修理の仕事はすばらしい出来栄でした。

平成八年に中部通産局長表彰、飛騨クラフト協会奨励賞、平成九年には伝統工芸士認定を受けるなど多くの賞を得ました。晩年に彫った「水芭蕉」という作品は昔から満開までの様子を一系列に彫り、台座を白太に、土と水芭蕉を赤太に、葉の先が白太になるよう工夫した秀作です。平成十年、六十一歳で没した永富の生涯の想いが込められているのではないかと思います。

生前、永富は「仕事がいだけ、欲しいものは他に何もない」ということをよく言っていたとい



「水芭蕉」